

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成 19 年度技術情報について

平成 19 年度技術情報第 1 号を発表したので送付します。

8 月以降、平年に比べて高温少雨傾向の気候が続いており、ハイマダラノメイガ、ダイコンサルハムシ、カブラハバチの発生量の増大が懸念されます。各害虫の概要をとりまとめましたので、現地においては発生状況の把握に努めるとともに適切な防除指導をお願いします。

平成 19 年度技術情報第 1 号

平成 19 年 10 月 5 日
徳 島 県

1. 農作物名 アブラナ科野菜全般

2. 病虫害名 ハイマダラノメイガ、ダイコンサルハムシ、カブラハバチ

1) ハイマダラノメイガ

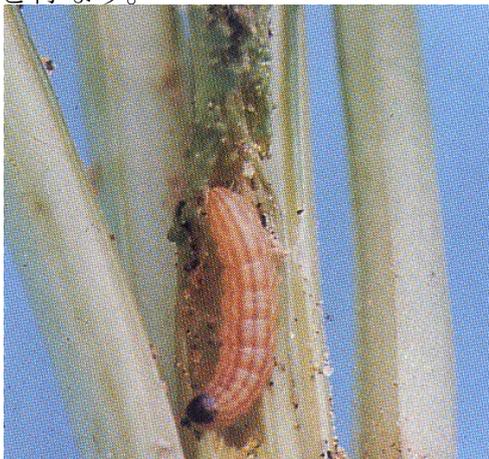
(1) 生態と加害

本虫は、9～11 月までの期間、育苗期や本圃の初期に幼虫が生長点付近を加害し、芯止まりを起こさせる。

(2) 防除対策

残暑の厳しい年に発生が多いので、このような年の晩夏から 10 月に播種する作型では、播種時に粒剤を処理しておく。

また、生長点部分が食害を受けてしおれている被害株をみつけたら、直ちに薬剤を散布するとともに、被害が多い場合は、土壤に粒剤を処理した上で速やかに播き直しを行なう。



ハイマダラノメイガ幼虫



ハイマダラノメイガ成虫

2) ダイコンサルハムシ

(1) 生態と加害

年に2～3回発生する。12月頃、草むらや石垣のすき間などで成虫越冬し、多くは夏まで越冬場所で過ごした後、晩夏から秋にかけてアブラナ科野菜に移動・加害する。

生息場所から歩行して侵入するため、被害は育苗床や圃場の周縁部から発生することが多い。葉に最初小さい孔、被害がすすむと大小の穴を多数開けた後、葉脈を残して食害するので、網目状となる。葉柄まで食害して枯死させるか著しく生育を遅らせるので、被害葉が目立ちはじめたら速やかに薬剤防除を行う。

(2) 防除対策

成虫の潜みやすい草むらなどの雑草や枯れ草は除去・焼却し、清潔にしておく。

本虫は、発生後にモンシロチョウ、コナガ、ヨトウガ、アブラムシ類に対する薬剤(BT剤、IGR剤を除く)で同時防除可能であるが、発生が多い場合は、ネキリムシやキスジノミハムシ等を対象とする粒剤の土壌処理によらなければ同時防除は難しい。

また、本虫は僅かな刺激で加害作物から落下するので、薬剤散布は丁寧に行う。



ダイコンサルハムシ幼虫



ダイコンサルハムシ成虫
(体長約4 mm)

3) カブラハバチ

(1) 生態と加害

若齢幼虫は葉の表や裏から加害し、始め小円形状に食害するが、中齢以降の幼虫は摂食量が増え、被害葉は葉脈を残すだけの状態となる。

幼虫態で土中にまゆをつくって越冬し春に蛹化、5月頃羽化してアブラナ科野菜に産卵し、年間5回発生する。

(2) 防除対策

密植を避け、株間を広くとって風通しがよくなるように作付けるとともに、日当たりの良い圃場を選定し、多肥等により軟弱徒長となることのないよう、栽培管理を適正に行う。

また、薬剤防除は若齢～中齢幼虫を対象に、幼虫が葉上にいる晴天日に実施する。



カブラハバチ幼虫